

報恩講とは、

親鸞さまのご法事のことです。真宗では一番大事な行事です。私たちの先達により、七〇年以上にわたり、ひと世代ひと世代、大切に伝えられてきました。しかし核家族化のせいでしょうか、ご両親はあんなに大事にされていたのに、次の世代になると全くご存じないという方が増えはじめています

初めて聞いた

という方も、どうか「温故知新（古きを温ねて新しきを知る）」の精神で、先達やご先祖が大切に伝えてこられた事を体験してみてください。それは「クリスマスをしないキリスト教徒」ぐらゐに真宗では大切なことなのです。

木を見て森を見ず

すぐそこに大きな森があるのですが、そのことをお伝えできない力不足を恥じ入るばかりです。どうか「葬式・法事だけでいい」と言われずに、通り報恩講や法座にご縁を結んで下さい。きつと、大きくて静かな森（仏さま）の世界が開けてくるはずですよ。



はじめての人の ベテランの人の 報恩講ガイド

（二〇二一年度版）



通り報恩講（詳しくは次頁をご覧ください。）について、

都合が悪い方

お仕事などで、ご案内の日時にご都合がつかない方は、別の日時にお参りさせていただいています。遠慮なくご相談下さい。また逆に、その時間に合わせて帰宅するので、コース表通りの時間でなければ困るという方も、失礼があつてはいけませんのでお寺までお知らせ下さい。

ご理解とご協力を

時間厳守を心がけておりますが、臨終勤行（枕経）やお葬式ができた場合は、誠に恐縮ですが、変更にご協力下さい。

また、変更する場合は、事前にご連絡いたしますが、お家の都合などで急な変更があつた場合や、深刻な相談があつた場合、どうしても多少時間が前後することがあります。どうぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

報恩講は三つある

まず、各ご家庭でつとめる「通り報恩講」。西教寺では、例年十月一日（土日祝日休み）よりはこちらで日時を指定させていただき、一軒三〇分目安でお参ります。遠隔地の方や事情があらりの方は、日程等相談してお参りさせて頂いています。ほとんどのご門徒がつとめられます。

次に、お寺での「お取り越し報恩講法座」。親鸞聖人のご命日（二月十六日）をご本山以外の各寺院は取り越してつとめます。ご門徒の皆さん、「年に一度、報恩講だけはお寺参りをする」と

おとりこし報恩講法座

三津田支坊

11月13日～15日

蔵本通支坊

11月25日～28日

長ノ木本坊

12月13日～16日

いうことになってください。

そして最後に、一月十六の親鸞さまのご命日、ご本山（西本願寺）では「ご正当（御正忌）報恩講」がつとまります（九日～十六日）。ご門徒なら、一生に一度はは本山にお参りしたいものです。しかし、本山へ参詣できない人のために、ご法義の厚い（信仰の盛んな）安芸地方では各寺院でもご正当の法座を行っております。

報恩講の意義

報恩講は、真宗門徒にとって特別な意味をもつ行事です。今まで仏法にご縁の遠かった方は、お寺という「先祖の葬式と法事をするところ」というイメージかもしれません。しかし、お釈迦さまの説かれた仏法、また親鸞さまの教えは、人生のさまざまな苦悩や悲しみを乗り越え、心の安らぎをえて、実りある人生を教えるものです。真宗では、そのように人生に眼をひかれ

ることを「信心を決定する」といい、毎月お寺で開かれている法座（お聴聞）は、そのためのものです。また、蓮如さん（本願寺八代門主）は、

未安心の行者にいたりては（略）この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば、真実真実、聖人（親鸞）報謝の懇志にあひかなふべきものなり。

『御俗姓』『浄土真宗聖典註釈版』123頁

と言われ、私たち一人一人が信心を決定すること、つまり人生の本当の意味に眼を開かれ、一時しのぎではない本当の心の安らぎを得ることこそが、親鸞さまのご恩に報いること「報恩」になるのだと仰有つています。

その意味では、西教寺の報恩講は、まことにお恥ずかしい、形ばかりの報恩講ですが、少しでも本来化・現代化して、「心の安らぎ」、新しい人生への「めざめ」、そして「出会い」の場とな

るよう、僧侶・門徒どもともに背筋を正してお迎えしたいと思ひます。

また既に、私は大きな宝物をもらつた、これが私に届けられるまでにはどれほどのご苦勞やお手間があつただろうと感じている皆さん、危機的状況ですが、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穩になるよう、できるところでご報謝をお願いいたします。ご家族ご友人など、一人でも多くの方を誘つてご縁におあい下さいね。

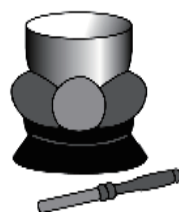
お仏壇の準備

何はともあれ、通り報恩講は、お仏壇のご準備から。報恩講は、昔から「おみがき」といってお仏壇を大掃除してお迎えするのが慣わしです。

おみがき（お掃除）

めつきしていいしんちゅ

う製の輪燈・おりん・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きましよう。家族みんなでおみがきしよう。



おかざり

お花

まごころをお供えるのですから、造花はご法度です。



ローソク

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお

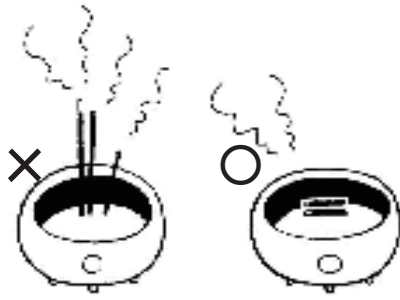


光りをともしましよう。新しい

を出しておいて下さい。できれば、朱口ウ（赤いローソク）で。マッチと灰皿をお忘れなく。

〈お香〉

できるだけ良い香りのものにししましょう。香炉は灰をならしておきましょう。マッチの燃えカスは香炉ではなく灰皿に入れるようにししましょう。



線香は立てずにねかせます

〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）にもお忘れなく。



〈お供え物〉

報恩講などの法要仏事の際は、お仏飯の他、お餅やお菓子等を適宜お供えします。お供える順番は①「餅」②「菓子」③「果物」の順です。また、お供えは、供筒（華足ともいう）や高杯に盛りますが、この辺で多い三方向が金濃（金色）、残りの三方向が黒の供筒は、金が正面に来るよう（黒が見えないように）します。



裏側（黒塗りの部分）が出ないようにします。

ちなみに、仏さまと、ご先祖とを混同しておられる方も少なくないようです。仏さまにはお水・お茶・コーヒ―・お酒・たばこ等はお供えしません。



亡き人とお話したり、涙を流したりするのも、また、その他さまざまな人生の苦悩も、仏

さまとともに受け止めるならば、五里霧中をさまよっていても、必ず光が差してまいります。お仏壇は大切なことを私に見せて下さる場です。

御文章

「出し忘れ」をしたり、向きが「上下逆」になっているのが御文章。お持ちでない方は、お寺にご相談下さい。ちなみに、法事の「お仏前」やお花、仏具など、お供えは皆、私たちの方向にを向けるのが作法です。お供えは、私が仏さまに向けて供えたつもりでも、実は備えさせてくださっている（私の仏心は実は仏のはたらかし）おかげ

の世界を表現しているそうです。ちが（上側）ちが（下側）



お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹香（粉のお香）を忘れずに。

お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。また、大切な物では直接地面に置かないよう気をつけましょう。



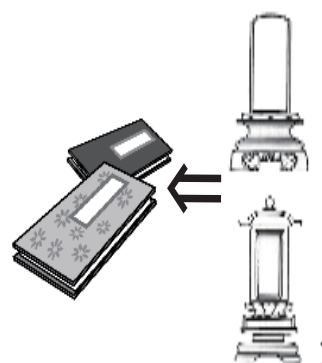
おつとめ

お経はいつしよについてあげます。老眼鏡を忘れずに。数年前から、お正信偈も少しはゆつくりになったと思いますので、できるだけ多く方を誘ってご縁にお会い下さい。

真宗には必要ないもの

真宗はお位牌は使いません。過去帳に書き換えましょう。

また、時々お参り先で、お守り・破魔矢・お札・神棚・他



宗の本尊など見かけます。このほか、日の善し悪しや方角、墓相・家相、その他さまざまな縁起担ぎや、壺や印鑑など、気になっている方もいらつしやるようです。

親鸞さまのお念仏の教えは、それらにしがみついて生きる人生ではなく、不安や恐れから解放されて、それらが一切必要ない「無碍の一道」、（さわりのない人生）がひらかれる教えです。それは決して、そうでないご門徒を「けしからん」とか「つまらん」と言っているのではなく、遠くまで行かなくても「身近



いらなくなります

にすばらしい教えがありますよ』とお伝えしたいのです。

尾畑文正さんの話

今年八月、白道会大会におこし頂いた尾畑文正（同朋大学学長）さんは、お寺のご出身ではないとのこと。病氣のお姉さんを治したい一心で、子どもの頃、家族ぐるみである宗教を信仰されていたそうです。その一生懸命な信仰にもかかわらず、伊勢湾台風によってお姉さんは（以下はご著書『親鸞聖人の手紙から』から引用）「あつという間に命終えていきました。頼んでいたものに裏切られた思いでいっぱいになったことを覚えています。しかし、それは宗教に裏切られたというよりも、真実でないものを真実とし、頼るべきでないものを頼っていた、私自身の思いが間に合わなかっただけであったことを後で知らされました。」ということでした。